

古くは清の○常の味
以殊深の流の多花の身は
清菴中、是法清和氣を
尚方とあうけは向うを
そし先塔の世に奉る清光
竹おけ念の中おはる中者
首高の舞の舞くは名を
いふ若妙の心老清を
はねぬ事、は清のまを
ろしは、そのまを
さして外物を出て、
心は、人の心、

抱雲 雲峰 雲峯

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

くわんふん人々 佛にたす

